

よい会社をつくろう よい経営者になろう よい経営環境をつくろう

3

March
2024

山形県中小企業家同友会

月刊 同友

やまがた



就職懇談会



よい会社 よい経営者 よい経営環境をめざす
中小企業経営者の全国組織

2023年度スローガン

人を生かす経営の実践で

新時代にチャレンジしよう

若者が働きやすい企業づくりを進め、地域で若者を育て定着させよう！



2月8日、山形テルサを会場に「就職担当者との就職懇談会」が開催され、県内外の大学・短大・専門学校就職担当者10校12名と、同友会の会員ならび採用担当者32名の計44名が参加しました。

開会にあたり佐藤委員長が「10年近く開催しているこの就職懇談会は、県内外の学校の皆様にご協力をいただけてきた。共同求人委員会の『共同』は社員と経営者がともにという意味のほかにも、一社でなく企業が集まるということ、そして企業だけでなく学校や行政の皆様とともに採用活動を行っていくという意味がある。企業が継続するためには若い力が必要。中小企業は地域の魅力を支える存在であり、中小企業に若者がいなければ地域が、ひいては日本が衰退していく。若者の採用という課題を真剣に考えていきたい」と挨拶しました。



初めに、採用と教育について㈱サニックスから実践報告がありました。

はじめに、代表取締役 佐藤啓氏から、自社の事業概要や採用教育の取り組みについて報告がありました。サニックスでは、基本理念である「社会を幸せにする 会社と社員が幸せになる100年企業を目指す！」の実践として「人的資本経営」に力を入れています。山形大学と同友会の連携事業である「共育型低学年プレインターンシップ」に取り組んでおり、採用活動や学生への学びの提供にとどまらず、受け入れる社員側の成長や共に育ちあう社風づくりにつなげています。また制度面でも、絶対評価で互いを認め合う人事評価制度の構築、キャリア研修等の充実に取り組んでおり、健康経営優良法人、地域未来牽引企業、やまがたスマイル企業ダイヤモンド認定などの認定を受けています。佐藤氏は最後に「現代において、暗黙知による経営や、言わなくてもわかるだろうという姿勢では若者の共感を得られない。会社の方向性や取り組みを明確に示して発信することにより、社員の自信や企業価値の向上にもつながっていく。人的資本経営でイノベーションに取り組みたい」と抱負を語りました。

続いて、同社の先進技術推進室 浅野目 瑠奏氏が自身の体験を報告しました。大学3年後半に進路を公務員から民間就

職に切り替えた浅野目氏は、企業説明会や面接に参加するも、特に女性活躍推進の面でなかなか働きたい企業に出会えなかったといい、「結婚や出産後のサポートが充実している一方で、女性一人として対等に見ているのかわからない企業や、一人の戦力としては期待されていないと感じる面接対応の企業もあり不安をめぐい切れず、内定を辞退することもあった」と当時を振り返りました。そんな中で「説明会、面接の誠実な対応」「EV等の先進的事業」「新規事業に関連して幅広い業務にチャレンジできること」「現状の課題と、解決のために求める人材像が明確だったこと」などが決め手となりサニックスに入社。現在はEV関連の新会社にて総務、経理業務等を行っています。大学の専門と異なる分野であるEV事業での勤務ということで当初は知識もなく、会議の議事録も書けないような状態だったものの、理解が深まるにつれやりがいも生まれているといいます。



入社前にあったワークライフバランスや失敗に対する不安も、入社後に「引継ぎをしっかりとすれば休みは取れる」「失敗自体よりもそれをどう生かすか」と気づき、次第に解消されていったといいます。また、入社してから感じた「わからないことを誰にどう聞けばよいのかわからない」「経験や知識の足りない業務で不安」といった点においても、メンター制度のおかげで年齢の近い先輩を頼れる環境であったこと、資格取得へのサポートがあったことでモチベーション向上につながったといいます。最後に浅野目氏は「この人にだったら安心して仕事を任せられると思ってもらえる社会人になりたい。そのために何事にも誠実に向き合い、成果追求だけでなくコミュニケーションをとって信頼関係構築も頑張りたい」と今後の抱負を語りました。

その後、各学校の参加者から就職支援の取り組み等について紹介があった後、グループ討論形式で意見交換会が行われ、学校と企業の立場から若者の採用と育成について語り合いました。参加した学校からは「今後の学生指導や授業改善へのヒントを得ることができた」「企業が給与や福利厚生等、待遇面の水準を上げていることを知れた」「インターンシップの取り組みを広げていきたい」、企業側からは「他社の取組や生の声をお聞かせいただき、気付きや学びがあった」「自社の良い所を見つけて伝える事やもっと学生との接点を持つことが大切」「社内の福利厚生充実など自己変革できる組織づくりが重要」といった感想が寄せられ、若者が働きやすい企業づくりを進め、学校と企業が連携を深め企業の魅力を発信していくことの重要性を確認しました。

中小企業のDXへの第一歩を学ぶ



2月8日、組織委員会主催の学習会が「DXはここから始まる 基礎から学ぶデジタル変革～小さな成功から始めるDX～」をテーマとし、講師に大槻 真一氏(株) Connect Design 専務取締役CTO)をお招きして開催されました。

冒頭挨拶に立った菅原代表理事は「DX(デジタルトランスフォーメーション)という言葉自体は耳にたこが出来るほど聞かすが、詳しくは知らないという方も多いと思う」とし、経済産業省の定めるDXの定義を引用しながら、この学習会をきっかけに、一緒にDXについて学びたいと呼びかけました。

講演冒頭に大槻氏は「DXとは単なるデジタル化のことを言うのではなく、デジタル技術を活用してビジネスモデルや組織を変革し、会社の競争力が高まることを指す」と語り、DXの前段には、アナログデータをデジタル化する「デジタイゼーション」と、仕事のプロセスそのものをデジタル化する「デジタライゼーション」の二つの「デジタル化」があり、これによって集まったデータが活用され、経営課題の解決や新しい価値の創出につながって初めてDXが実現すると説明。そこで大槻氏は、DXに向けて「デジタル化」と「トランスフォーメーション」を分けて考え、まず二つのデジタル化を確実にクリアすることを提案しました。

そして、デジタル化の意義を見失わないための注意点として「ITツールを検討する前にまずは自社の課題を特定すること」「改善した先に何のメリットがあるのかをきちんと考えること」「改善前、改善後の効果測定をきちんと行うこと」「一人ではなくチームで行うこと」の4つを挙げ、そ

うして収集できるようになったデータを分析して判断や行動に活かす「データドリブン経営」の必要性を提起しました。

その後、既存のデジタルツールの整理や社員教育による社内システムの効率化や、ITリテラシーの向上、オンライン施策による売上増進、情報伝達ツール導入による労働時間削減、現場の改善意識向上といったデジタル化事例を紹介し、「例えば、電話やメールのコミュニケーションをチャットに、Excelをスプレッドシートに、書類をアプリに置き換える。そういった小さなところからデジタルに触れて、慣れてもらうことが大切。メリットを実感して初めて現場から要望が出てくる」としながらも「現場は普段の業務があり、並行して新しいツールを定着させるには根気強いフォローが必要になる。生成系AIなど技術はどんどん進歩していくが、あくまでDXを進めるのは会社にいる人間なのだということを意識していただきたい」とまとめました。

参加者からは「経営者層からDXへの指針や実務側から検討すべきことが明快に理解できた。社内での棚おろしを見直すきっかけになった」「DXとデジタル化がイコールではなく、技術を用いてバックオフィス、フロントオフィスで様々な変革を行っていくことを指すことが改めて理解できた。デジタルにすることが目的ではないことを視点として持ち、適切な判断が必要だと感じた」「業務を変えずにDX化を進めた事例を聞き、自社でも出来るかもしれないと希望を感じた」といった感想が寄せられました。



「経営環境分析実践講座」開催

1月29日、組織委員会の主催で学習会「経営環境分析実践講座」を開催し、各支部から38名が参加しました。

開会に先立ち、菅原代表理事からは「情勢の変動が激しい中において知っていただくべきことと考え本講座を開催しました。新年度に向けた経営指針見直し、経営戦略策定に活かしていただきたい」と挨拶がありました。



最初に、経済産業省地域経済産業グループ地域経済産業調査室 室長補佐 田中幸仁氏から「データを活用した中小企業の経営戦略」と題して講演がありました。

田中氏は、経営環境に関する情報が経営判断に大きな影響を及ぼし、企業の将来性を左右するとし、適切な判断を行うためには経営者の暗黙知をデータで補うことが重要であると語り、特に経営判断に活かしやすいデータとして

「統計」を挙げました。同友会の『企業変革支援プログラム Ver.2』もフル活用するためには統計が必要であり、自社の業績、業界の景気動向、取引先業界や地域の景況といった指標でデータを見て経営判断や経営指針に活用すること、そしてそのツールとして国が運用する『地域経済分析システム RESAS(以下、RESAS)』を利用することを呼びかけました。



その後、経済産業省地域経済産業グループ地域経済産業調査室 RESAS開発担当 与五沢浩一氏の解説を受けながら、参加者がPCやタブレットでその場でRESASにアクセスし、自社の経営環境を分析しました。統計情報を参照し、自社、取引先、地域等を取り巻く環境

を客観的に把握し、自社の経営指針、経営計画を見直す機会となりました。

山形県中小企業家同友会 第40回定時総会

2024年度
スローガン

自社の存在意義を問い直し、地域と共に豊かな未来へ

2024. **4.23** (火) 受付 12:30
開会 13:00

会場

パレスグランデール

山形市荒橋町1丁目17-40 TEL 023-633-3313

参加費

第1部 定時総会	無料
第2部 記念講演・グループ討論	2,000円
第3部 懇親会	8,000円

タイムテーブル

第1部	13:00~14:10	定時総会
	14:30~14:45	セレモニー
第2部	14:45~16:20	記念講演
	16:30~18:15	グループ討論
第3部	18:30~20:00	懇親会



講師 株式会社琉球補聴器 代表取締役

森山 賢氏 沖縄同友会理事・共同求人委員長

■設立:1987年 ■資本金:1,600万円
■年商:6.5億円 ■従業員数:40名
■事業内容:聞こえの相談、補聴器販売、修理、メンテナンス、耳鼻咽喉科用医療機器販売
沖縄補聴器シェア率60%
「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞
2018年審査委員会特別賞受賞

3月例会のご案内

山形支部

お客様のお困りごとを解決する会社への変革 ～事業の「再点検」と「再出発」～

2024.3.15(金) 14:00～16:30

場所：道の駅山形ざおう 樹氷ホール&zoom
山形市表蔵王79番地1 ☎023-676-6868

報告者：(有)菅原物流 代表取締役 菅原司氏

昔はなりゆき経営、寝る間も惜しんで仕事に専念していたにもかかわらず、業績は悪化の一途、幹部社員と合わずに心が病んだこともありました。また、決断することへの甘さが課題にもなっていました。

そこで、菅原氏は事業の見直し、再点検から変革に取り組みました。同友会等の多くの学びから、事業領域の再確認し、地域の食と生活を 24 時間 365 日支える会社へ改革することを決断しました。

近年、業績も持ち直し、社員同士のチームワークも向上してきました。さらに昨年、事務所を建築してより良い環境へ変わっていきました。社員と地域を大切に成長してきた、菅原社長の軌跡を辿って、経営姿勢と実践方法を学びます。お問い合わせの上ご参加下さい。ゲスト参加も大歓迎です！

さくらんぼ支部

社員が輝く居場所をつくりたい ～経営指針づくりと、経営者としての覚悟と、社員への想い～

2024.3.19(火) 15:00～17:30

場所：東根市タントクルセンター&zoom
東根市中央1-5-1 ☎0237-43-1155

報告者：(株)リリー 代表取締役 原田由理子氏

原田氏は経営者としてどうあるべきか悩み、昨年第 27 期経営指針をつくる会を受講しました。

経営の目的や目指す会社を問いかけながら経営指針書を作成する中で、場当たり的ではなく先を見据えた経営の必要性に気づきました。「大変さを上回る収穫があった」、そして何より「めちゃくちゃ楽しかった」と経営指針づくりを振り返る原田氏は、経営指針書づくりをとおして得た一番大きなものは「人が一番大事。社員の成長が大事」という気づきだったと語ります。

社員さんと同じ方向を向くために、社員さんの人となりやこれまでの背景も踏まえた上で、コミュニケーションを取り、共感して共鳴し、行動する関係性を目指しています。社員と共に歩みを進める原田氏の報告から、どんな経営者でありたいのか、どんな会社になりたいのか改めて考える機会にしましょう。

新庄最上支部

「好き」から始まる絆の強さ ～想いは必ず伝わる～

2024.3.25(月) 18:30～21:00

場所：新庄市民プラザ小ホール&zoom
新庄市大手町1-60 ☎0233-22-4200

報告者：シナリー化粧品エムズドゥ販売スカイ・ブルー営業所 所長 鈴木有里子氏

結婚を機に東京から鮭川村へ移住した鈴木氏は、鮭川村の美しい自然に囲まれながら過ごした時間、そして育児中の出来事、自然や地域への思いを強めていきました。

そんな中で出会ったシナリー化粧品の理念に感銘を受けてアドバイザーに。「全員が経営者」であるシナリーの営業所長として、会社が掲げる理念や「5つの約束」「5ない守る訓」（内容は当日をお楽しみに！）を実践した人づくりに取り組むとともに、自身が実行委員会を立ち上げて行政も巻き込み、「新庄オーガニック&ナチュラルフェスタ」やマルシェ「きのこの森であいましょう」を開催するなど、地域の未来づくりにも精力的に取り組んでいます。

地域の人々を巻き込みながら最上の未来づくりに取り組む鈴木氏の思いと実践から学び合いましょう。ご参加お待ちしております！

置賜支部

会社の今を見直してもっと良い会社にしませんか ～企業変革支援PG Ver.2の活用～

2024.3.19(火) 18:00～20:30

場所：伝国の杜&zoom
米沢市丸の内1丁目2-1 ☎0238-26-8001

報告者：(株)カーサービス山形 代表取締役 小川大輔氏

環境が目まぐるしく変化する現代において、経営者は自社をこれからも存続発展する企業へ変えていく必要に迫られています。そのためには、まず自社の現状を把握し、強みや弱みを明確にしなければなりません。

『企業変革支援プログラム Ver.2』を会社全体で活用して社員目線を含めた自社の現状把握を行い、経営指針の作成に役立てている小川氏の報告から企業変革の必要性を学び、実際にシートへ記入するワークショップで自社を分析してみましょう。皆さまぜひお問い合わせの上ご参加ください。

寒河江支部

経営指針をつくる会で学んだこと ～学級経営と企業経営の違いから見えてきた課題～

2024.3.29(金) 18:30～20:30

場所：寒河江市技術交流プラザ&zoom
寒河江市中央工業団地153-1 ☎0237-86-1991

報告者：ういずグループ 代表 山口喜代美氏

寒河江で鍼灸整骨院・エステサロン・Food Labo（食育事業）を運営するういずグループ。教師として学級経営に携わってきた山口氏は企業経営に奮闘する中で、同友会へ入会。昨年には「経営指針をつくる会」を受講し、明確になったビジョンに向けて奔走しておられます。

学級経営と企業経営の違いから得た気づきや経営指針づくりの中で生まれた課題を報告いただき、変化する社会の中でどのように企業経営の基礎の再確認をしていくか学びあいます。ぜひご参加ください！

庄内支部

酒田船筆筒を世界へ

2024.3.27(水) 18:30～21:00

場所：酒田市中央公民館 410研修室&zoom
酒田市中央西町2-59 ☎0234-24-2991

報告者：加藤木工 営業企画部部长 加藤 渉氏

「自身が培った設計・デザインのスキルを家業である差物技術と融合させたい！船筆筒を世界に発信したい！庄内の魅力を世界に伝えたい！」そうした想いを抱き 2019 年酒田に U ターンした加藤氏は、それから 5 年弱で海外出品するまでに至りました。その歩みからは、実直に目的に突き進むことの大切さ、一見畑違いに見えるスキルが本業に活かせる大きな可能性を感じることが出来ます。加藤氏のように、自分達の企業を取り巻く環境を見つめ直し、自分達が暮らし、知り尽くしたこの地域だからこそ出来る仕事を考えてみましょう。きっと、日本のみならず世界でも通用する価値あるものが存在しているはずです。

女性部例会

教員から経営者へ ～経営指針で自分が変わる、社員が変わる～

2024.3.14(木) 13:30～15:30

場所：同友会事務局&zoom
山形市漆山字大段1865-5 TISビルディング201号室

報告者：ういずグループ 代表 山口喜代美氏

自らの職業経験から「健康のために心と身体を整えたい」と創業。鍼灸整骨院、瘦身、フードラボの 3 つの事業を柱に営んでいます。「同友会は社長の学校」という話を聞き、経営者として学ぶため同友会に入会。経営者になるためには、学び舎で財務をはじめ必要な知識を習得しなくてはならないと信じて疑わなかった山口氏は「第 28 期経営指針をつくる会」に参加し、経営の目的や目指す会社を問いかけながら経営指針書を作成しました。社員と共に経営指針書づくりに取り組む中で、自分が変わると、社員が変わることを実感したといえます。社員と共に歩み出した山口氏が経営指針づくりを通しての気づきと今後の展望を報告します。

第10回理事会報告

◆日時: 2024年2月14日(水)午後3時00分~午後4時50分 ◆会場: TISカンファレンスルーム ◆議長: 小川副代表理事
◆出席者: (敬称略)川合、後藤、小川、阿部、佐藤(啓)、半澤、大江、高橋、笹林、平形、白鳥、鮫野、菊地、東海林、玉津、大泉、齊加、伊藤、本多、西塔、武内、小寺、菅原、井田、事務局矢作、芳賀、青木、上遠野

■開会挨拶

川合代表理事より「組織委員会では増強について話し合い、各組織での動きが見えてきた中で、同友会の魅力を言語化して伝えることの大切さを感じる。同友会の目的をしっかりと理解した上で入会するよう、理事の皆さんには率先して動いていただきたい。また、能登半島地震からの復興は進んでおらず、厳しい状況が続いているという話を伺っている。同友会の仲間がいる地域ですので、ご協力をお願いしたい」と挨拶がありました。

■報告事項

- 1) 中同協第3回幹事会1/12~13(東京)3名参加
北海道・東北ブロック代表者会議1/13(東京)3名参加
後藤代表理事が、第3回中同協幹事会では、広浜会長の「同友会運動の新しいステージと私たちの使命」と題した問題提起、京都橋大学・岡田知弘教授の「2024年経済展望と中小企業・地域の課題」と題した記念講演があったこと、北海道・東北ブロック代表者会議では、山形で開催された2023ブロック支部長・地区会長交流会の決算が承認されたこと、2024年度ブロック行事などの予定を報告しました。
- 2) 第2回中同協経営労働委員会1/18(東京)1名参加
小川副代表理事より、林経営労働委員長が、一つ目に経営労働委員会が積み重ねてきた努力と到達に確信を持って「経営指針の成文化と実践の手引き」や「企業変革支援プログラムVer.2」などをさらに活用すること、二つ目に「労使見解」に基づく経営指針の実践企業をあげようということ、三つ目に地域づくりと企業づくりを一体にした運動に挑戦しようという問題提起を行い、厳しい環境だからこそ学びの実践に活路を見出し、多様な同友会運動の実践により地域と企業を同時につくっていくことが大事という話があったこと、また、2月~3月の「働く環境づくり強化月間」への取り組みの呼びかけ、第8回経営労働問題全国交流会の報告、埼玉同友会の小松経営労働委員長の事例報告、拓殖大学の山本教授からの講義があったことなどが報告されました。
- 3) 第2回中同協共同求人委員会2/9(東京)1名参加
佐藤副代表理事が、各同友会の共同求人活動の特徴などを分析したアンケート結果では、全国的な特徴として学校からのインターンシップをはじめとした協力要請が非常に増えていることや、合同企業説明会の参加者減少、参加企業数の増加、他の委員会との協力が強化されているとの報告があり、川中共同求人委員長より共同求人委員会は採用できたか否かで一喜一憂する活動ではなく、地域活性化のために人を育てていく活動で、すぐに結果が出なくても継続する必要があるとの問題提起があったことを紹介し、「地域の中小企業が採用することは益々難しくなっているが、共同求人活動を社会教育活動と捉え、教育機関とかかわり、地域を活性化していかなければならないと感じた」と報告しました。
- 4) 能登半島地震への支援金募集の中間報告
川合代表理事が支援金の中間報告を行い、改めて協力を呼びかけました。
- 5) 2023年度1月月次報告
矢作事務局長より報告がありました。
- 6) 2023年度1月月次決算報告
矢作事務局長より報告がありました。

■承認事項(入・退会承認) 6名入会 473名

■討議事項

議題1: 会員増強の取り組みについて

1) 組織委員会の報告

阿部副代表理事が、組織委員会の報告として、今年度目標の達成まで14名ということを確認し、今後の取り組みについて話し合ったこと、HPのアクセス分析の報告やRESAS学習会、技術革新学習会のまとめ、次年度の役員体制や今年度の振り返りについて話し合ったことを報告し、「各支部幹事会の方でもクロージングやフォローを具体的な行動計画に落とし込んで、目標を達成して欲しい」と呼びかけました。

同友会を知る会の予定

日 時	会 場
2月19日(月)15:00	同友会事務局
3月14日(木)18:00	酒田 ミライニ研修室
3月22日(金)15:00	同友会事務局

議題2: 第40回定時総会に向けての議案作成について

川合代表理事より2024年度の役員案についての中間報告があり確認しました。役員選考委員については、下記のとおり承認されました。

続いて、2023年度活動のまとめ(案)と2024年度活動方針骨子(案)が提案され、2024年度スローガン「自社の存在意義を問い直し、地域と共に豊かな未来へ」が決まり、議案の詳細については意見集約を行い、次回理事会にて継続審議になりました。

【役員選考委員】

阿部 秀顕 中川 健 佐藤 弘康 齋藤 和彦 志田 清志
阿部 孝博 三原 辰博

議題3: (仮称)地域共生委員会設立について

玉津理事より下記の内容が提案され、承認されました。

- 名 称 地域共生委員会
- 役員体制 委員長: 玉津弘之 副委員長: 平形洋司
- 目 的 違いを認め合う経営者、社員をめざして、人間尊重経営を深く学び、心のバイアスがでない社内風土を構築し、障害者が活躍できる企業集団となり、一人一人が大切にされる地域づくりを進める。
- 活 動 ・毎月の委員会では、「共に育つ」等の文献の読み合わせとディスカッションで人間尊重経営を学び、深め合う。
・障がい者雇用に取り組み企業の実践報告と見学会の実施
・各社の課題から今後の活動を展開する。

議題4: 2024新春交流会のまとめ

小寺理事が協力のお礼を述べた後、まとめと収支報告を提案し、承認されました。

議題5: 第40回定時総会について

大泉理事より開催要項と予算案が提案され、記念講演・グループ討論の参加費を2,000円にすることが決まり、提案が承認されました。

議題6: 第56回定時総会in宮城について

後藤代表理事より7月4日(木)~5日(金)に開かれる中同協第56回定時総会in宮城の代議員数目標が35名となることと、分科会でスキハイテック(株) 代表取締役社長 鈴木一徳氏から多様性を生かした企業づくりについて報告していただくことが提案され、承認されました。

■その他

1) 依頼について

「デジタル技術の導入状況や課題状況」のアンケート協力依頼、山形大学オンラインセミナー「これから始めるリカレント教育」と「中南米日系社会との連携調査団 参加企業募集」の周知依頼についての説明があり、承認されました。

2) 今後の予定について

- ・2月27日(火)中同協・第2回女性部連絡会(Zoom)13:00~
- ・3月5日(火)第2回中同協社員教育委員会(Zoom)13:00~
- ・3月7日(木)~8日(金)第54回中小企業問題全国研究会in三重
- ・3月12日(火)青年部3月例会
- ・4月2日(火)合同入社式・新入社員研修(ビッグウィング)9:00~

3) 今後の常任理事会と理事会日程について

第11回常任理事会	3月6日(水)16:00	第11回理事会	3月13日(水)15:00
第12回常任理事会	4月3日(水)16:00	第12回理事会	4月10日(水)15:00

■閉会挨拶

佐藤(啓)副代表理事より「今回は来年度の方針などの議題がありました。話し合った目標を基に来年度に向けて皆で頑張りましょう」と挨拶がありました。

新会員紹介

◆ **峯田 和宜氏**
みねた かずのり
峯田電器(株) 代表取締役社長
家電・リフォーム・創蓄・介護
山形支部

◆ **佐藤 香奈子氏**
さとう かなこ
(有)とがしスポーツ 代表取締役社長
アウトドアスポーツ用品小売
庄内・酒田地区

◆ **鹿内 美子氏**
かのうち よしこ
(株)RESORT 代表取締役
エステ・マツエク・化粧品
山形支部

◆ **鈴木 真人氏**
すずき まさひと
防火管理サポートプラスワン 代表
防火管理コンサルタント
さくらんぼ支部

◆ **堀川 政彦氏**
ほりかわ まさひこ
THEE LOCAL yamagata 代表
県産加工食品販売、イベント運営
山形支部

◆ **浅岡 拓也氏**
あさおか たくや
(有)宿衛衛生社 専務取締役
廃棄物収集運搬業
寒河江支部

会員変更

●(有)日清資源 代表取締役 三沢大介氏 ⇒ 工場長 朝倉昌樹氏(山形支部)

同友やまがた3月号 (2024年3月1日発行/通巻372号)



“知り合い、学び合い、援け合い”
山形県中小企業家同友会

〒990-2161 山形県山形市大字漆山字大段1865-5 TISビルディング201
TEL (023) 615-8302 FAX (023) 615-8304
URL: <https://yamagata.doyu.jp/> E-mail: info@yamagata-doyu.jp